

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「ノーマライゼーション精神の追求」をもとに運営方針を掲げ、日夜取り組んでいる。 月一回の全体会議にて説明の上、周知徹底を促し向上を図っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の意識付けにて共有し、全てに満足することなく常に向上して行ける様、こと有るごとに話をしている。 またケアの本質に研鑽し続けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には定期的なDMにて地域密着型サービスを理解頂ける様に促している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝の挨拶や子供達とも気軽に声掛けをし、遊びに来てもらったりしている。正月も挨拶まわりを実施している。定期的に行われる、班会にも出席し、地域の方々からの意見を聞くようにしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会等では慰問に出席させて頂き、施設の役割や認知症への理解のお話もさせて頂いており、とても喜ばれている。 小学生との交流は行っている。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	独居老人のゴミ出しや買物等の支援をしている。運営推進委員会にて地域の高齢者等の問題点を区長より伺い、出来ることを検討し、毎週日曜日に「何でも相談会」を実施している。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部より評価を受けることで、全職員が同じ価値観で、技術の向上や接遇マナーができるように努めている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね、二ヶ月毎の会議にて情報提供の上、意見を伺っている。5回に及ぶ会議にて諸意見を賜った点はその度実施に努めている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に各担当者へ挨拶訪問を実施し、話す機会を頂いている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に当たり、市町村担当部署へ伺い話しをする中、研修会等出来る限り参加し学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や毎日のミーティングで常時話し合い、言葉による虐待も禁止し、全職員の意識統一に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の要望を十分に傾聴し、理解と納得いただけるように、説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は常に真摯に受け止め、改善を図ったら理解を求めたりして、不安がないように配慮している。又、定期的にアンケートを行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々電話や面会時カルテを開示し、生活、健康状態を説明し、ご家族に安心して頂けるような良い関係を作っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見や相談があったら、直ちにカンファレンスを行い、不安の解消に努めて、職員へ周知徹底を図っている。又、家族会も行い、意見を聞くようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時自由に意見やケアへの対応、不安等は聞き、幹部会で話し合ったりして、反映させて不安がないよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	有難いことに小規模との併設のため、お互いに協力体制を図り、利用者優先で不安がないように努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	小規模との併設のため全職員が全利用者を把握し、いつでもどこでもケアが受けられるように指導して、利用者や家族に不安がないように努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会に参加。また、グループホーム研修の参加も定期的に促し、必要に応じ個々との話し合う機会を設け、段階を常に厳しく見極め、外部研修も率先し実施している。又、経験年数等に応じて、外部(県人材研修センター主催)研修に年間を通じて参加予定をしている。	○	他施設見学、外部講師を取入れ段階に手落ち遅れのない育成を図って行きたいと考える。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月行われている研究会に出席、交流をし、勉強する機会を設けている。各人時間を見ては交流を図っている報告を受けている。又、宮崎市ケアマネ連絡協議会にも加入し、研鑽及び情報収集している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「環境が人を育てる」理念教育の一部項でもあることから手を抜く事なく努めている。随時、個人面談も実施している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々を常時厳しく見る中、声掛け向上意識を失う事のない様話す等努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	人生の大先輩として常に尊重し、本人が困っていることへの援助と安心できる声掛けに努め、何回でも訴えは聴くようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に家族の不安や要望等は真摯に受け止め、協力を求めながらも安心して第二の家としての生活が出来るように面会時は(有難うございます)感謝の気持ちを忘れず、信頼関係を構築している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が出来ることを見極め、少しの援助で技能の維持向上が図れるようにし、ご家族へも出来るだけ協力を頂き、面会の回数を多くして日々の変化に対応できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学や体験により、いきなりではなく「ここならいいわ」と言ってもらってからサービス利用して頂くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の大先輩をケアさせて頂いて、有難うの気持ちで自分がされて嬉しいケアを提供し、喜び悲しみを共有し、家族として関わり又は多くを学ぶ努力をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはケアの中で気付いたことを特に嬉しかったことはお話し、面会に来るのが楽しみだと思って頂けるように配慮しながら、家族と共に支え合う努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に嫁姑との関係の理解に努め、お互いの気持ちを尊重しながら傷つかないように配慮し、感謝できる関係作りを支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域住民の方々や、昔の友達との面会や小規模利用者との交流の場を提供している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に寂しさを軽減するため、仲の良い人同士を居室で交流が図れるようにセッティングし、共に皆が仲良く生活できるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約を終了され、電話等で状況の確認を行い、いつでも相談されるように安心して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	9人の方、一人ひとりの希望や気持ちの訴え、表情、仕草等で把握し、行動抑制することなく自由に生活できるように検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は「聞き取りシート」を使って把握し、本人が好まれることへの支援とそこからコミュニケーションや表情、能力を引き出している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のケース記録、バイタル、排泄、入眠状況表の活用により、一人ひとりの生活リズムや健康状況の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の要望と現状を把握しながらプランを作成している。プラン作りは、本人家族、担当者、ケアマネが参加している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化に応じ、家族やケアマネと看護師が相談し、病院受診の検討や見直しはしているかまだ不十分である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の会話や観察を記録し、記録に基づき情報を共有し、カンファレンス時に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能と併設のため、常時自由に交流が図れて集団でのレクリエーションへの参加や、年間行事、誕生会行事は合同で実施できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアや民生委員の方とは、常に連携を取りながら施設訪問をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ターミナルケアを望まれた際に、訪問看護ステーションと連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、相談を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者の状況に応じ、本人ご家族の同意の下かかりつけ医の変更をし、主治医とも常に連携を図り適切な医療が受けられ長生きして楽しい暮らしができるように支援している。受診は職員が介助し、行けない時には家族の協力を得ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医を中心にしながら家族とも相談し、専門医師との信頼関係を築き、常に情報を共有しながら穏やかな生活ができるよう支援をしている。(医師からも常に感謝されている)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時看護師と連携をとり、どんな小さなことでも報告し、利用者の安全と健康管理に配慮している。利用者の命を重視し、夜中でも直ちに報告できる体制にしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は常に家族と電話で連絡を取り合ったり、お見舞いに行き、ナースと情報交換を行い、退院計画についても相談を重ねている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に終末期お考えを把握し、本人や家族の希望が叶えられるように文書で共有している。24時間連絡体制の看護を実施している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	症状が重度化しても終末期でも、ご家族の要望を最大限に叶えられるようにしながらご家族に面会の機会を多くし、思い出作りや主治医とも相談しながら一日でも長く良い暮らしが出来るよう取り組んでいる。	○	今後は定期的(2回/年)ターミナルケアの勉強会を実施したい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住むことがあった場合は、十分な話し合いはする予定である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1. カルテは事務所で管理、ケアプランファイルは別室で保管。 2. ケア時はさせて頂いて有難うの気持ちを忘れず、常に羞恥心に配慮した声掛けを徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の利用者の表情、仕草を理解し、必要に応じて筆談やジェスチャーを取り入れ、入浴ひとつでも本人が納得されてから入浴して頂いている。(全てのケアに対し、納得されてから)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先ではなく、利用者優先にしている。また、その人が台所を手伝いたいと思えるような雰囲気作りをしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事参加時や外出時は化粧介助や外出着への促し、支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	開設当初はグループホームで食事を作ったりして頂いていたが、現在は専門のシェフによって作っているため、準備や後片付け、下膳等その人のできることをして頂いている。また時々野菜の収穫に行き、皮むきなどは手伝ってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の利用者に合わせ、本人ご家族が希望される焼酎、ジュースを提供している。また、嗜好を伺い、嫌いな物は違う献立にしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の利用者の排泄パターンを把握し、紙パンツへの変更や表情や仕草で尿意を察知してトイレでの排泄を促し、失禁防止や尿器を使用することで汚染を防いでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節に応じた入浴剤を使用、本人の好みの湯加減、浸かる時間は本人希望で対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の心身の状況に合わせて支援している。何時も寝付けない方へは添い寝をする等して、寂しさを軽減させながら安眠に結び付けている。出来るだけ日中の活動量を上げながら、また食事やおやつにより、満腹感を与えて夜間の安眠が得られるようにしている。夜間起きて来られる方にも、状況に応じて、お茶やお菓子を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人が、今何をしたいのかをスタッフが理解して差し上げられるようなケを心掛けている。又、ご家族にも面会を多くしてもらっている。自宅へ利用者を連れて行く支援を取り入れ、気分転換を図って頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今までは、最低金額は本人が所持管理させたり、支払い時本人に払って頂いている方もいた。又、買物(洋服、菓子類)レクリエーションもしている。尚、利用者さまの状況に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在、農園、堤防、近所への散歩を二回/週位取り入れている。又、定期的にドライブも行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見遠足、初詣、外食、運動公園への外出を支援している。	○	今後は幼稚園、小学校へ連れて行きたい。(運動会へ参加) また、映画鑑賞をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと要望があれば、その都度、対応している。又、手紙が届くと、本人に渡したり、読んで差し上げている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に面会に来て頂き、和室や居室にテーブルと椅子、お茶等を直ちに準備して職員も交えて楽しめるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入口の鍵も自由に開けられるようにしており、基本的に身体拘束や言葉による抑制は禁止している。(独りで立ち上がる方へはベルを用意している) 1. 居室に鍵はかけない。 2. 玄関はいつも開いている(又自由に開けられるようにしてある。)	○	巡視以外の安全確認も実施している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊、帰宅願望、昼夜逆転がある方へは小規模とも連携し、常時寄り添い、目配り、気配り、心配りに配慮し、転倒や離棟の防止に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	基本的に本人に管理して頂き、洗濯時や毎日のケアの中で紛失がないか確認をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1. 薬は金庫で管理し、与薬時はふたりで確認をするようにしている。(手渡し、飲まれたことを確認するまで)2. 日常生活の中で下肢の筋力訓練を実施したり、ベルを鳴らして知らせるようにしている。3. 離棟の危険性がある方へは家族の同意の下、服の裏に名前を記入。民生委員、区長、警察と連携して、地区の住民の協力4. 夜間は必ず義歯をはずして休んで頂く。餅は安全に食べられる工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の指導により行い、全体会議で勉強会を実施し、救急蘇生等を訓練している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の防火訓練を実施し、一回は利用者も全員参加(消防署立会いの下)して頂いている。また、地域住民にも事前に張り紙でお知らせ参加もして頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン説明時に家族の希望を聞きながら、十分な説明と理解を得られるよう話し合っている。 また、面会時、カルテ開示をし説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを毎日行い、体調の変化や異変があった場合は、その都度看護師→ケアマネ→家族→へ報告し、症状によっては病院受診を行っている。(※施設長・社長にも同時に報告)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は金庫で管理(基本的にNSがセット)し、誤薬等がないように二人の職員でチェックしている。また、薬の目的や副作用は与薬された時申し送りしたり、薬情報を個人の記録に添付し、確認できるようにしている。内服服用時は、口の中を点検する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンの把握、トイレ訪問等を行うと共に、野菜ジュースやヨーグルトを飲んで頂いたりして運動も促して一緒に動いてもらっている。それでも、排便が見られない場合は、下剤使用し(病院処方)にて様子観察を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの残存機能を活かし、その方に合わせた介助で行っている。また必要に応じ訪問歯科治療受診している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理を行う専門の職員が食事を作っている。形態も粥、パン、キザミ食、トロミ食、好き嫌い等も聞き、一人ひとりに合った量等も工夫し提供している。月1回、給食検討会を開き、意見交換を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、新人研修時と全体会議の中で現時点で一回のみ実施。手洗い、うがいについてはケア毎に励行するように指導している。入浴時に全身の観察を行い、疑いのあるものは、家族の許可を得て、すぐに受診している。新型インフルエンザについても、職員会議にて、内容確認している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には留意している。調理を行う専門の職員を配置し、食材は毎日買出ししている。また野菜は、農園で取れたてを使用。洗浄等は特に念入りにし、常に消毒、清掃を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関まわりに季節の花や植木、木製のベンチ、テーブル等を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気にも努めている。小規模と併設のため、和室で昼寝されたり自由に行き来できるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで一人で静かに新聞を読んだりテレビを視聴しながら仲の良い方同士で交流が図れたり、交流が図れたり、事務所で読書や書き物をしたりして過ごして頂けるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス、クローゼット、ベット、布団類は施設のものですが、持ち込むものに制限はなく、机やテレビ、布団等使い慣れた好みの物を活かしている。窓際には花を植えている。家族の写真を、壁に貼ったり棚に置いたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その方の意向や状況と合わせてこまめに行っている。オムツ交換は必ず新聞紙に包み、指定ゴミ箱にその都度入れ、臭いを出さない配慮をしている。排便後は消臭スプレーをしている。換気窓があり適時こまめに実施している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差は全くなく、廊下やトイレには手摺を設置している。洗濯物をたたむスペースも畳にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には家族同意の下、ひらがなで名札をかけている。トイレは絵などでトイレと図示してある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには花を植え、洗濯干し場を設置、中庭に面した所に縁側があり、自由に日光浴をしたりソーメン流し等も提供している。	○	今後は外庭の花植えを利用者と一緒に行っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、家族にとってゆりの里は「第二の家」の構築を目標に掲げ、ハード面でもソフト面でも特に接遇マナーを徹底し、自分がされて嬉しいケアをさりげなく提供する様日々研鑽に心がけ、努力を重ねている。
 また、小規模と併設している為、自由に交流が図れるように配慮し、行事等も一緒に参加できるようにしている。
 家族面会時は常に感謝の気持ちを伝え、利用者の喜ばれた時々の生活場面をお話することで、毎日でも来たいと思われるように支援している。
 設備としては入浴時に異変が生じた時でも直ぐに横になって頂けるように畳風呂を取り入れ、自由に入られるようにしている。
 冬は肌の乾燥を防ぐ為、暖炉で優しい暖かさを提供、利用者の憩いの場となっている。また時折、釜でご飯を炊き召し上がって頂ける様に釜も設置しています。